RHEL を定期的にアップデートする際の課題と対策

2018-04-20 Red Hat K.K. Solution Architect 森若和雄

このスライドの位置づけ

- ・対象:RHELを運用している管理者の方
- 目的:RHEL を定期的にアップデートする際に何が課題になるかと、課題に対して利用できる 仕組みとして何があるかを紹介する

概要

- RHEL でも定期的なアップデートは必須
- Red Hat Enterprise Linux だけでここまでできる
- Red Hat Insights があると……?
- Red Hat Satellite があると……?
- Red Hat Ansible Automation があると……?

RHEL でも 定期的なアップデートは必須です

- Windows Server は定期的にアップデートしてますよね
 - 毎月?3ヶ月おき?
- 同じことを RHEL だとやっていない・できていない お客様が沢山います
 - 「インストールした時点の最新で」「はい」 「5年経ちました……」「はい……」
- RHELでも定期的なアップデートは必須です

アップデートを実施する際の課題

- **更新情報を含むインベントリ管理**: 適用するべき修正がどのシステムにどれだけ存在しているか、作業に抜け漏れはないか
- 優先順位の設定: どのアップデートはすぐ対応するべきか、どのアップデートは定期更新でいいのか
- 更新パッケージの入手: インターネットに接続していない場合 はどうやって入手するのか
- リポジトリのバージョン管理:テスト環境でテストしたパッケージだけを本番環境で利用したい
- **複雑な更新手順の実施**: アップデート手順が複雑なので実施に 必要な工数が大きすぎる

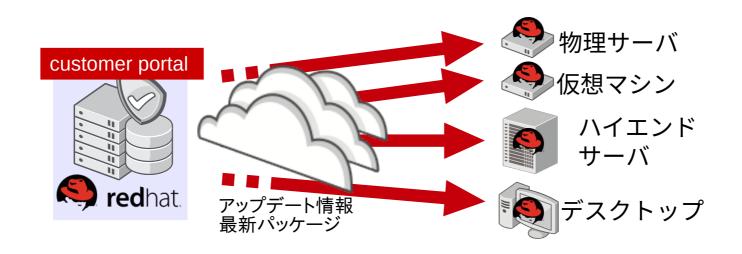
Red Hat Enterprise Linux だけで ここまでできる

課題:インベントリ管理

- 現状把握や作業の抜け漏れ予防のためインベント リ管理は必須
 - システムそれぞれにどのパッケージが含まれているか
 - 適用するべき修正がどのシステムにどれだけ存在しているか
- Red Hat Customer Portal
 - 登録したシステムに対して適用可能な errata 一覧やサマリを表示
 - 登録したシステムに該当する新しい errata が出荷されるとメール で通知

Customer Portal によるインベントリ管理

Customer Portal はインベントリ情報として各システムの基本的な情報と導入されている製品・パッケージの情報を管理。 登録したシステムでは yum コマンドによりパッケージそのものと、 errata などのメタデータを取得できる。

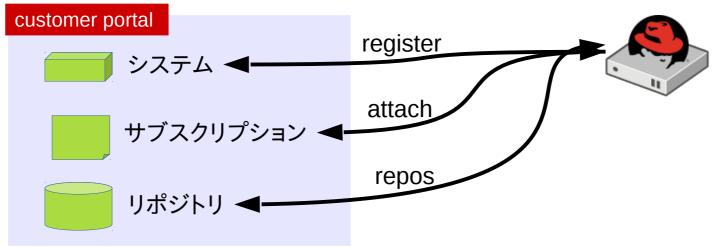


subscription-manager での登録

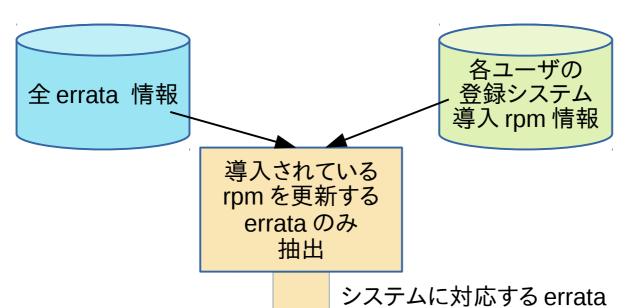
subscription-manager はシステム、サブスクリプション、リポジトリの登録・対応づけを管理するコマンド。

subscription-manager register → システムを登録 # subscription-manager attach → システムにサブスクリプションを 対応づけ

subscription-manager repos → リポジトリの利用有無を設定



対応する errata だけを表示 / 通知







customer portal での errata 確認



アドバイザリー	タイプ/重大度	概要	影響を受け るシステム ^章	公開日 ▼
RHSA-2017:3247	♥ セキュリティーアドバイザリー (重大)	Critical: firefox security update	6	2017-11-17
RHSA-2017:2998	♥ セキュリティーアドバイザリー (重大)	Critical: java-1.8.0-openjdk security update	4	2017-10-20
RHSA-2017:2836	① セキュリティーアドバイザリー (重大)	Critical: dnsmasq security update	7	2017-10-02
RHSA-2017:2837	① セキュリティーアドバイザリー (重大)	Critical: dnsmasq security update		2017-10-02
	_			

https://access.redhat.com/management/errata

Copyright Red Hat K.K. All rights reserved.

影響を受けるシステム台数

customer portal でのシステム確認

システム

以下は、このアカウントのシステム一覧です。

名前/UUID での絞り込み

他のフィルター マ フィルターのリセット

名前	<u></u>	タイプ 💠	最終チェックイン 🕏	Errata
ipa.example.com	1	仮想システム	2017/12/12	Ū 42 ଛ 125 2 34
● localhost	1	仮想システム	2017/09/19	Ū 49 ଛ 184 ≥ 35
localhost.localdomain	1	仮想システム	2017/06/15	Ū 125 🕸 373 🗡 64
localhost.localdomain	1	仮想システム	2017/07/05	最新
	0	仮想システム	該当なし	該当なし
rhel6	1	仮想システム	2018/01/11	該当なし
• rhel7.example.com	1	仮想システム	2017/10/03	① 96 廉
nhel7.example.com	1	仮想システム	2018/ 各シ	ステムについて

https://access.redhat.com/management/systems

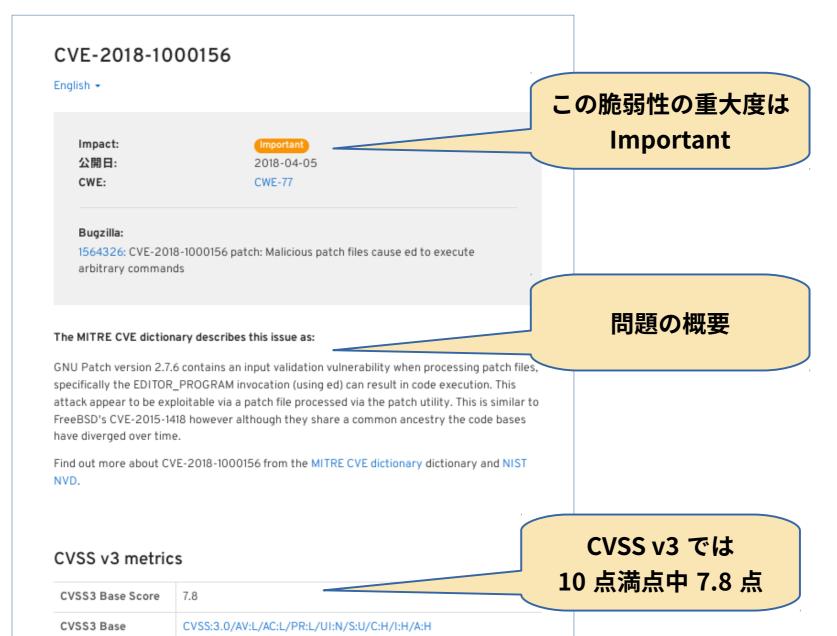
Copyright Red Hat K.K. All rights reserved.

適用可能なセキュリティfix バグ fix,機能拡張の数

課題:優先順位の設定

- 対処するべき脆弱性や設定の問題などは多数存在する
 - → 各修正作業に優先順位を設定する必要性
 - 問題の重大さ、システムの可用性要件、被害にあった場合の深刻さ等
- ・ CVSS スコア
 - 脆弱性に対する 10 点満点の評価。攻撃に利用できる経路や攻撃の難し さなどで点数が決まります。 Red Hat の脆弱性情報には CVSS スコア が含まれます。
- errata の重大度
 - セキュリティ問題についての errata は Critical, Important, Moderate, Low の 4 段階に分類されています。

脆弱性データベース内での表示



Metrics

customer portal での重大度表示



https://access.redhat.com/downloads/content/69/ver=/rhel---7/7.4/x86_64/product-errata

各システム内での確認

- yum updateinfo
 - errata の数と種類を表示
- yum updateinfo list
 - 該当する errata とパッ ケージのリスト

```
[root@rhel74 ~]# yum updateinfo
Loaded plugins: product-id, search-disabled-repos, s
Updates Information Summary: updates
11 Security notice(s)
9 Important Security notice(s)
2 Moderate Security notice(s)
10 Bugfix notice(s)
3 Enhancement notice(s)
updateinfo summary done
```

```
Loaded plugins: product-id, search-disabled-repos, su
RHSA-2018:0102 Important/Sec. bind-libs-32:9.9.4-51.e
RHSA-2018:0102 Important/Sec. bind-libs-lite-32:9.9.4
RHSA-2018:0102 Important/Sec. bind-license-32:9.9.4-5
RHSA-2018:0102 Important/Sec. bind-utils-32:9.9.4-51.
RHBA-2018:0145 bugfix
                              binutils-2.25.1-32.base
RHBA-2018:0143 bugfix
                              device-mapper-persisten
1. x86 64
RHSA-2018:0158 Moderate/Sec.
                              dhclient-12:4, 2, 5-58, e1
                              dhcp-common-12:4.2.5-58
RHSA-2018:0158 Moderate/Sec.
RHSA-2018:0158 Moderate/Sec.
                              dhcp-libs-12:4.2.5-58.e
RHBA-2018:0042 bugfix
                              dracut-033-502.el7 4.1.
RHBA-2018:0042 bugfix
                              dracut-config-rescue-03
RHBA-2018:0042 bugfix
                              dracut-network-033-502.
RHEA-2018:0141 enhancement
                              initscripts-9.49.39-1.e
RHSA-2018:0014 Important/Sec. iwl100-firmware-39.31.5
RHSA-2018:0094 Important/Sec. iwl100-firmware-39.31.5
```

各システム内での確認(続)

- yum updateinfo info
 - 該当する errata の説明表示

```
Important: bind security update
  Update ID : RHSA-2018:0102
    Release: 0
       Type: security
     Status : final
     Issued: 2018-01-22 08:15:48 UTC
       Bugs: 1534812 - CVE-2017-3145 bind: Improper fetch cleanup sequencing in
 the resolver can cause named to crash
       CVEs : CVE-2017-3145
Description : The Berkeley Internet Name Domain (BIND) is an implementation of
            : the Domain Name System (DNS) protocols. BIND
            : includes a DNS server (named); a resolver library
            : (routines for applications to use when interfacing
            : with DNS); and tools for verifying that the DNS
            : server is operating correctly.
            : Security Eix(es): Red Hat K.K. All rights reserved.
            : * A use-after-free flaw leading to denial of
```

課題:更新パッケージの入手

- Red Hat Customer Portal
 - yum コマンドへ更新情報やパッケージを供給
 - cdn.redhat.com への接続が必要
 - ダウンロードページから rpm パッケージを入手
 - 自動的に依存関係を解決してくれないので煩雑
 - reposync コマンドによるリポジトリの同期
 - reposync を実行するシステムに対応するリポジトリを 同期可能

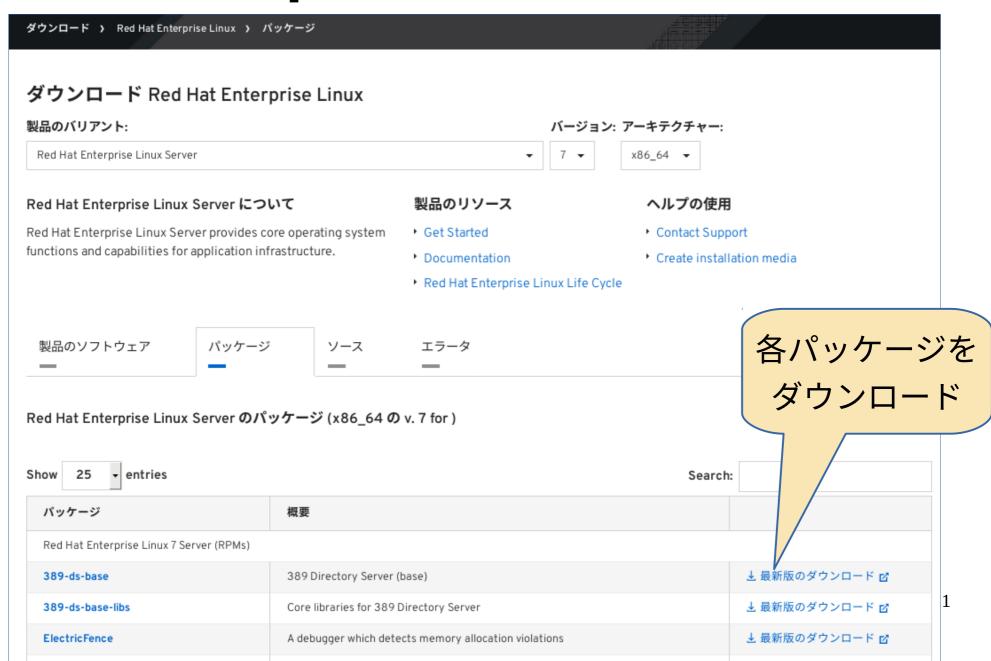
yum コマンドでのダウンロードと インストール

- 「yum update 」コマンド
 - システムに含まれているパッケージ全てを最新へ更新
 - 依存関係解決を行い、必要になったパッケージを追加
- 「yum update パッケージ名」コマンド
 - 指定した特定のパッケージを更新
 - 依存関係解決を行い、指定したパッケージを更新する ために必要なパッケージを同時に更新・追加

yum コマンドでのダウンロードと インストール(続)

- 「セキュリティ fix が出ていれば適用したい」
 - yum update --security
- 「特定の CVE に関連する修正を適用したい」
 - yum update --cve CVE-2008-0947
- ※RHEL 6 以前では yum-plugin-security パッケージのインストールが必要です (https://access.redhat.com/ja/solutions/207493)

customer portal でのダウンロード



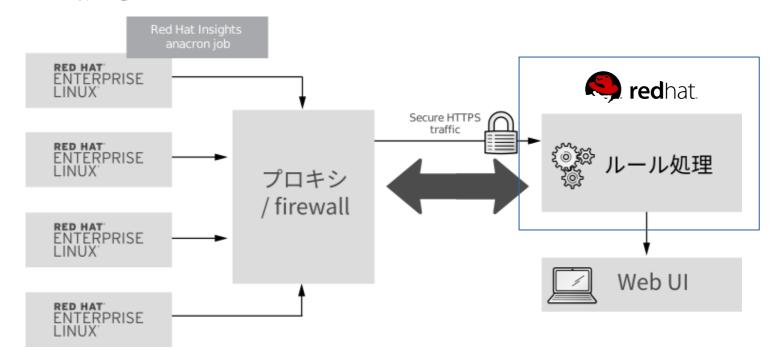
reposync でのローカルミラー作成

- subscription-manager で登録後、そのシステムで利用可能なリポジトリを reposync コマンドでミラーできる
 - 例:reposync-r rhel-7-server-rpms
- ※ 詳しくはナレッジベース「How to synchronize repository on system registered to CDN via subscription-manager」を参照 https://access.redhat.com/articles/1355053

Red Hat Insights があると……?

Red Hat Insights とは?

- Red Hat のプロアクティブなシステム分析サービス
- 定期的に情報を収集して重大な問題や設定の問題を検出
- 問題の説明、対策方法を含むレポートを生成
 - 存在する場合にはアップデート以外のワークアラウン ドも提示



Insights は何が嬉しいの?

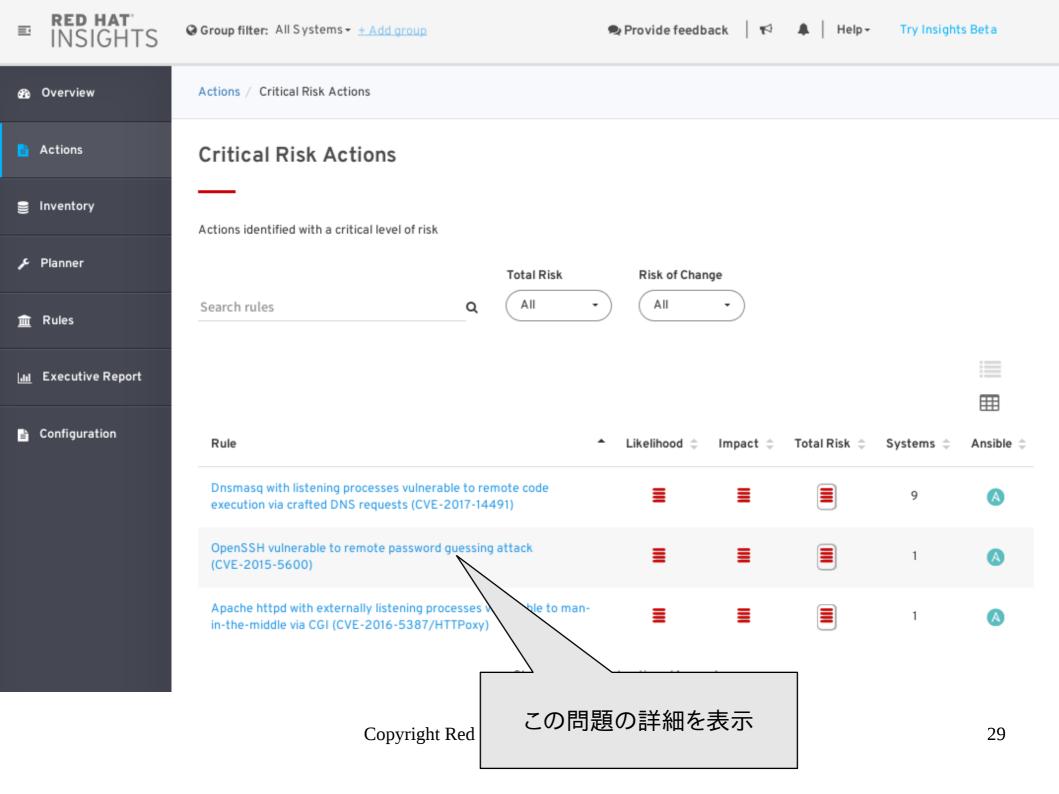
- レポートで問題につながる予兆を把握する
 - 受け身で緊急対応するのではなく計画的に対応
 - 既知の問題に対する状況を可視化
- Red Hat の最新の知見を反映したルール
 - 典型的な問題を回避
 - ごく最近知られるようになった問題も検出
- 具体的な対処方法を含むため対策しやすい
 - 対策用の Ansible Playbook を提供

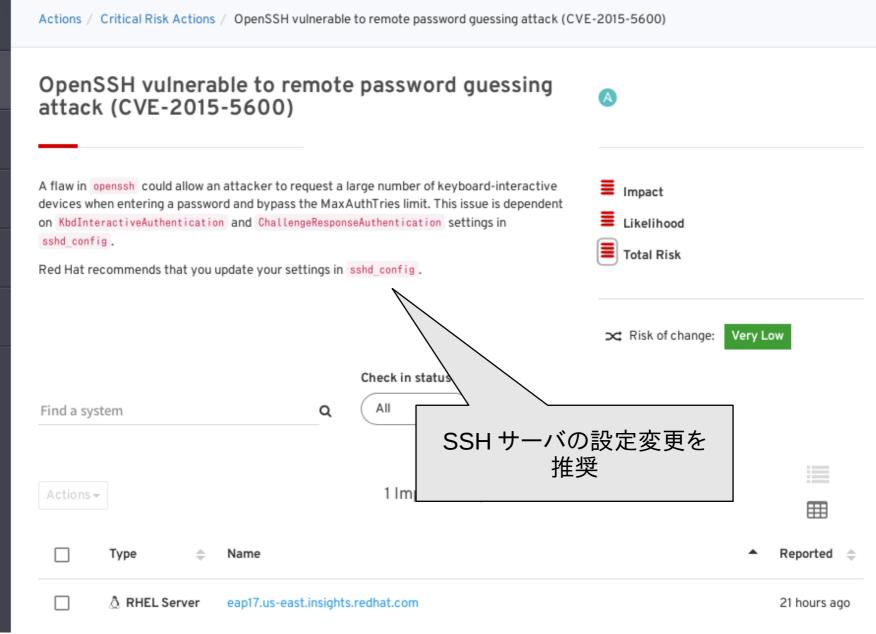
課題:優先順位の設定

- Red Hat Insights の Actions(問題の予兆と対策)には優先順位を決めるために必要な情報を含む
 - 問題が発生した場合のインパクトの大きさ
 - 問題の発生する可能性
 - 上記2つを踏まえたリスクの大きさ
 - 対策の実施にどの程度リスクがあるか

Red Hat Insights の出力例

- 必要な対処を分類して表示
 - リスクの高さ
 - 何に影響するか(セキュリティ、パフォーマンス、 可用性、安定性)
- 分類毎の表示
- 各対処の詳細を表示

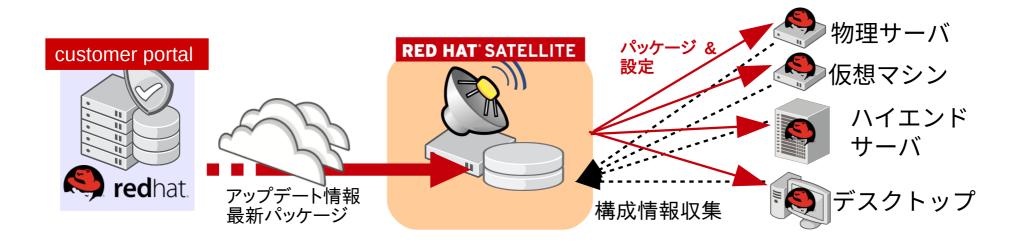




Red Hat Satellite があると……?

Red Hat Satellite とは?

Red Hat Satellite は構内にサーバを構築し、インターネット接続がない環境でも Customer Portal 相当の機能を提供する他、サードパーティ rpm パッケージの配布、リポジトリのバージョン管理、リモートコマンド実行などの追加機能を提供します。



課題:更新パッケージの入手

- Red Hat Satellite Server
 - 製品、バージョン、アーキテクチャをあらかじめ指定してリポジトリを定期的に同期
 - インターネット接続がない Satellite Server のため ISO イメージ形式で更新データを配布しています(不定期)
 - 別システムで ISO イメージをダウンロード後、 USB メモリや DVD-R などでデータを持ち込む
 - 同期用 Satellite Server から、インターネット接続がない Satellite Server ヘパッケージ同期する仕組みも提供

Satellite でのリポジトリ同期

同期の状態

すべて折りたたむ	すべて展開	すべてを選択解除	すべてを選択	□ 実行中のみ
----------	-------	----------	--------	---------

製品	開始時刻	期間	詳細	結果
▼ Red Hat Enterprise Linux Server				
▼ 7Server				
▼ x86_64				
Red Hat Enterprise Linux 7 Server RPMs x86_64 7Server	15分前	1分以内	新規パッケージがありません。	Syncing Complete.
Red Hat Satellite Tools 6.2 for RHEL 7 Server RPMs x86_64	15分前	1分以内	新規パッケージがありません。	Syncing Complete.

今すぐ同期

課題: リポジトリのバージョン管理

- 「テスト環境でテストしたパッケージだけを本番環境に適用したい」
 - 問題になるケースの例:
 - 7月10日にテスト環境を構築し、約2週間テストを行う
 - 8月15日にテスト環境と同じ手順でアップデートを実施
 - → 全く同じ手順を実施したが yum update コマンドで更新される内容 が異なる。よく調べてみると 8 月 1 日に新しい修正が出荷されていた。
- Red Hat Satellite
 - リポジトリのスナップショットを作成し、各システムがどの世 代を参照できるかを管理する Content View 機能を提供

リポジトリのバージョン管理

「このパッチ当てても大丈夫?」

→ レポジトリ(コンテンツビュー)のバージョン管理で、 アップデート検証~本番適用のワークフローが明確に

編集用 ライブラリ ver 1.0 **NG!**

- 2015-04-01 時点の 最新パッケージ

Publish.

ver 2.0 **OK!**

- 2015-04-01 時点の 最新パッケージ
- kernel は 5/1 時点の

- 2015-04-01 時点の

- 最新パッケージ



検証環境向け リリース (QA)

■ Promote

Publish.

New Ver.

- 2015-04-01 時点の 最新パッケージ
- kernel は 5/1 時点の 最新のものを利用

L Promote

- 2015-04-01 時点の 最新パッケージ
- kernel は 5/1 時点の 最新のものを利用
- VENOM 対応追加



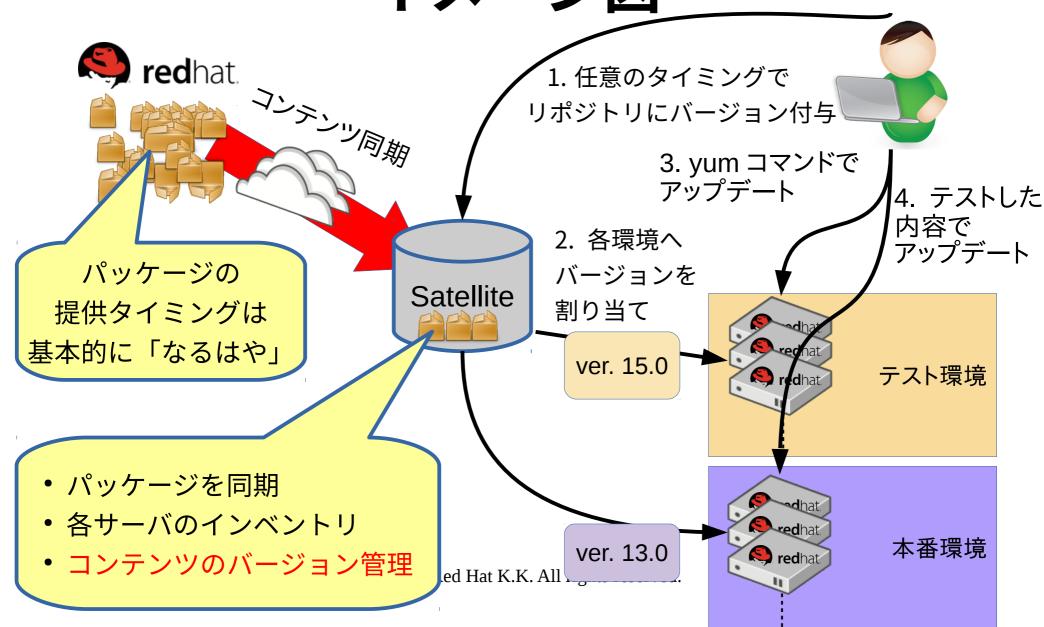
本番環境向け リリース (Prod) **■ Promote**

kernel は 5/1 時 最新のものを VENOM 対応



リポジトリのバージョン管理





コンテンツビュー管理画面



Insights と Satellite は重複する?

- 「必要なソフトウェア更新を検出する」点では重複
 - Satellite は網羅的に、 Insights は重要なものだけ
- Satellite はインベントリ管理や、パッケージ配布などの機能をもつ、 rpm パッケージを基盤とする運用スイートです
- Insights はソフトウェアの更新だけでなく、設定の問題や ISV 製品との競合、統計情報等も参照したリスク 検出を行います

Red Hat Ansible Automation があると……?

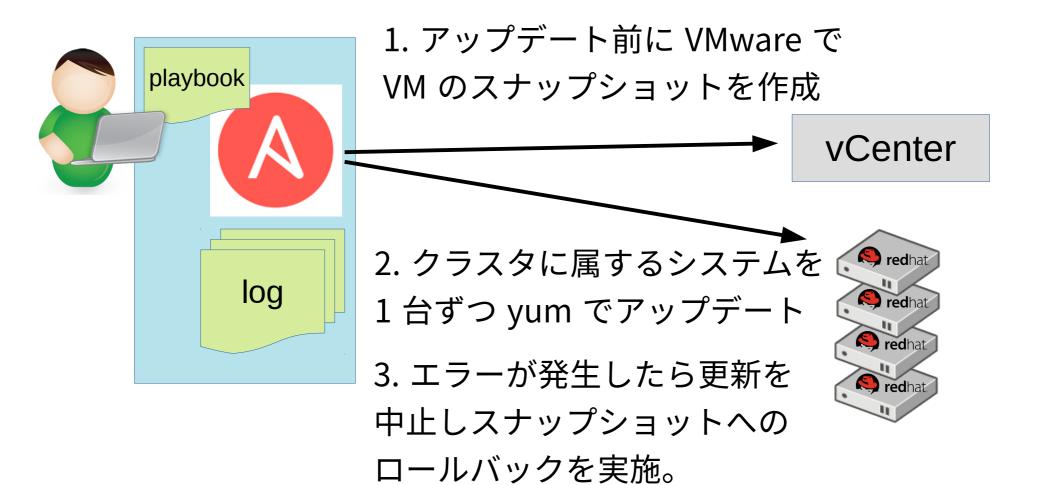
複雑な更新手順を確実に再現したい

- 複雑なシステムでは単純に「全システムで yum update を実行して完了」では済まない
 - 前後に手順が必要:事前にバックアップ作成、ロード バランサ切り替え、クラスタからの除外・再参加など
 - 制約条件:同一クラスタ内では同時に1台しか停止しないなど
- アップデートに工数がかかると実施が難しくなる
 - → 自動化による対策が有効

Red Hat Ansible Automation

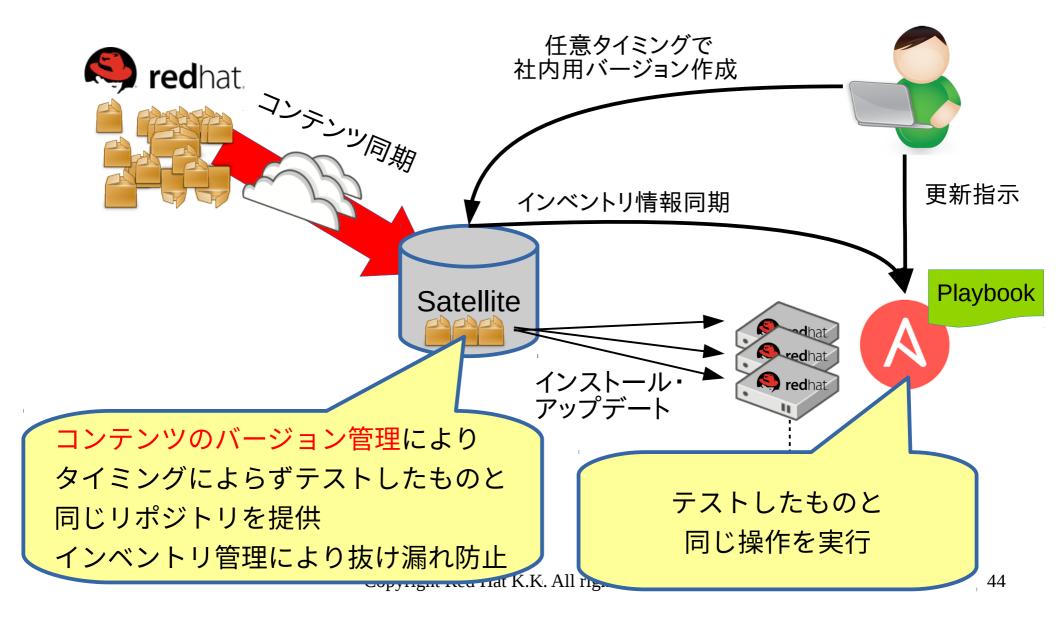
- 様々な OS、ネットワーク機器、仮想化基盤、 クラウドなどを操作することが可能な自動化工 ンジンと管理ツール
- ・ 典型的な操作や制約条件を直感的に記述できる 記法
- テスト環境で確立したアップデート手順を再現

Ansible Tower による更新の例

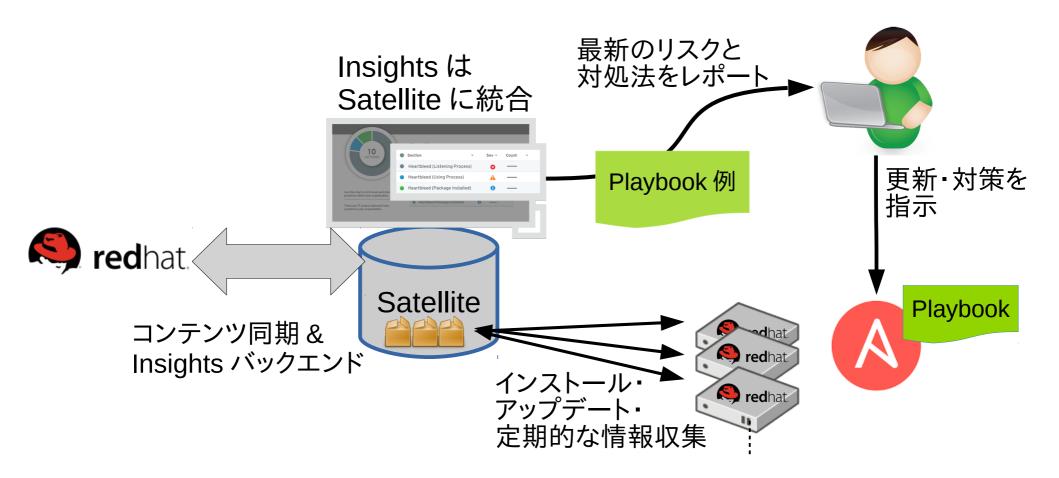


4. Ansible Tower で各ジョブの成功・失敗、ログを確認

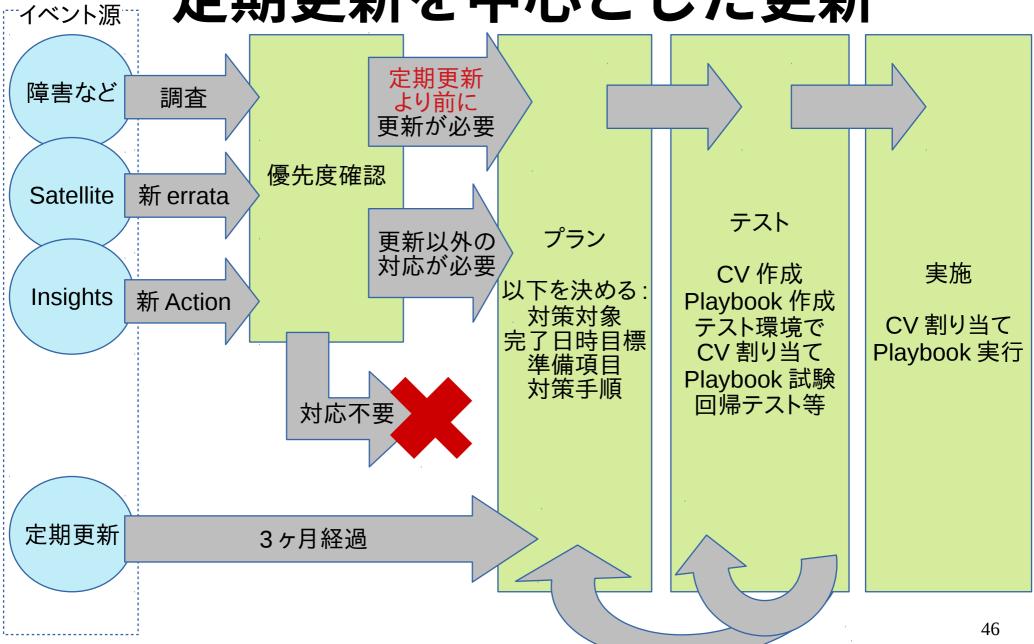
Satellite + Ansible イメージ図



Insights+Satellite+Ansible イメージ図



定期更新を中心とした更新



まとめ:課題と製品の対応表

	カスタマー ポータル	Insights	Satellite	Ansible
更新情報を含むイ ンベントリ管理	OK	N/A	OK	N/A
優先順位の設定	脆弱性のみ	全アクションに リスク情報	脆弱性のみ	N/A
更新パッケージの 入手	OK	N/A	OK	N/A
リポジトリのバー ジョン管理	N/A	N/A	OK	N/A
複雑な更新手順の実施	N/A	Ansible Playbook 例を 提供	N/A	OK

まとめ

- Red Hat Enterprise Linux でも定期的なアップデート は必須です
- Red Hat Enterprise Linux だけでもある程度管理でき る仕組みを提供しています (Customer Portal)
- Red Hat Satellite はインターネット接続がない環境や リポジトリのバージョン管理が必要な場合に有効です
- Red Hat Ansible Automation でアップデート手順を 自動化することで実施しやすくなります